

想いを
繋いで

CONTENTS

同窓会長、学校長あいさつ	1
事業・決算報告 / 事業・予算計画	2-3
総会・講演会・当番学年イベント	4-5
同窓会イベント「ブラ弥生」	6-7
学校だより	8-9
高校再編の現況	10
会費について	11
こぼれ話 / 役員名簿 / 編集後記	12

ご挨拶

同窓会長 下島 典子



会員の皆様、お元気ですらっしゃいますか。
 コロナ禍の制約が少しずつ緩和された5月末、同窓会総会を3年ぶりに開催いたしました。
 高校再編により伊那北高校との統合が決まり、また校地も伊那北高校跡地となることから、母校の懐かしい校舎をぜひ見ておきたいという当番学年の強い想いに学校からのご理解をいただき、初めて母校が会場となりました。次第の中で新校検討委員長から高校再編の現況について、また同窓会としての対応について経過報告をさせていただきました。
 講演会は当番学年の高校33回生で、プロバドミントン選手の奥原希望さんのお母様である奥原秀子さんにお願ひしました。「この親にしてこの子あり」と納得させられる興味深いお話を聴くことができました。
 33回生はこの後「ブラ弥生」と称するイベントの企画により、クラスごとに校舎、敷地内を散策しました。その様子は18歳の弥生生にタイムスリップしているようでした。
 昨年7月には「コロナ禍において頑張っている後輩の支援に使ってほしい」と匿名での百万円のご寄付をいただきました。温かいご厚情に心より感謝し、御礼申し上げます。
 今年3月には同窓会として制服リユース事業を始めました。卒業する3年生や同窓生にお知らせしたところ「大切な制服だからこそ後輩に着ていただき、高校生活を充実させてほしい」と20着ほど届けられました。10数着が新入生に譲り受けられ、その制服を身につけて学校生活を送っていることを思うと感慨深いものがあります。
 少しずつ穏やかな日常が戻りつつあります。今後も母校、在校生への支援を続けて参りたいと思います。変わらぬ御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。
 皆様お健やかに過ごしておりますように。

同窓生の想い

伊那弥生ヶ丘高等学校長 松村 明



人々を校舎に招き入れるように並び立つ銀杏は、いよいよ緑が深くなってまいりました。同窓会の皆様方には、日頃より母校の教育活動に多大なご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
 「With コロナ」の考え方の広がりとともに、学校行事やイベント等できるところから実施してきている状況にあります。その中で、「今年こそは」との強い思いを持ち、2年間できなかった同窓会総会が、本校小体育館にて実施でき、お招きいただきました。総会運営をされていた第33回卒の幹事学年が私と同年代の方々であったこと、さらに、中学校時隣のクラスで顔見知りであった、奥原秀子さん（旧姓：宮下さん；第33回卒）からバドミントンの五輪メダリストである希望さんを母として育ててきたお話が聞けたことは、大変に有意義な時間でした。人との出会いに感謝し、このひと時に不思議なご縁を感じました。幹事学年の皆様が「ブラ弥生」と称した校内観覧を計画し、当時と全く同じ風景は一部であったとはいえ、楽しそうに懐かしんで歩いたり、記念写真を撮ったりしていた姿が印象的でした。同窓会総会を本校校舎で実施したのは初めてのこのことのように、幹事学年の強い想いが実ってよかったと思っています。
 弥生ヶ丘に立つ学び舎や樹木等の風景は、今後もずっと残ってほしいと願う一日でした。

令和3年度は新型コロナウイルス感染防止のため、当初計画した会議や事業を中止や制限、変更せざるを得ない場面が多くあったため、活動は限られました。

〈事業〉

事業名	内容
① 組織の充実	◇会費については感染予防に配慮して、全会員振り込みの方法に切り替えて行った。 ◇支部役員会を開くことができない状況が続き、本部役員が出席しての意見交換や情報収集ができなかった。
② 情報の発信	◇会報を発行し、全会員、教職員、在校生へ配布した。 ◇ホームページを活用して、迅速な情報の発信を行った。
③ 会員の交流	◇総会及び弥生展の開催を中止したため、会員の資質向上や交流の機会を設定できなかった。
④ 母校の教育活動支援	◇教育諸活動への支援 ・クラブ活動助成（全国大会出場クラブ） ・学力向上、進路実現のための支援事業（弥生塾）への助成 ・環境整備、IT学習設備整備、探究学習経費補助 ◇卒業生への記念品（卒業証書ホルダー）の贈呈
⑤ 伊那新校設置への対応	◇伊那新校（仮称）再編実施計画懇話会に同窓会の代表を送った。 ◇統合に向けて、状況の把握、情報や課題の共有を図り、その対応について、研究協議を行った。 ◇県教委担当者との懇談を行った。
⑥ その他	◇制服リユース事業に取り組んだ。

〈会議等〉

○常任理事会3回 ○専門委員会4回 他

一般会計決算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

収入	9,244,569円
支出	9,045,127円
差引	199,442円

〈収入の部〉

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増減
1 繰越金	198,555	198,555	0
2 会費	10,050,000	9,017,000	△1,033,000
3 繰入金	0	0	0
4 雑収入	1,445	29,014	27,569
合計	10,250,000	9,244,569	△1,005,431

〈支出の部〉

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増減
1 事務費	3,730,000	2,945,878	△784,122
2 交際費	90,000	55,600	△34,400
3 会議費	40,000	29,809	△10,191
4 旅費	20,000	0	△20,000
5 事業費	2,900,000	1,934,640	△965,360
6 広告費	20,000	33,000	13,000
7 修繕費	50,000	13,200	△36,800
8 繰出金	3,390,000	4,033,000	643,000
9 予備費	10,000	0	△10,000
合計	10,250,000	9,045,127	△1,204,873

(△ 決算額が予算額より少ない場合)

終身会費積立金決算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位 円)

前年度末積立額	今年度変動額				今年度末積立額
	繰り入れ額	繰り出し額	利息	計	
14,861,875	4,033,000	2,687,000	111	1,346,111	16,207,986

※1 ※2

※1 本年度、終身会費として納入された金額の内、年会費（1人当たり1,000円）を除いた金額を来年度以降の終身会費として積み立てた（＝一般会計：8繰出金）

※2 昨年度末までの終身会費納入者累計2,687名の年会費（1人当たり1,000円）を、本年度分の会費として一般会計に繰り出した（＝一般会計：2会費を含む）

基金積立金決算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位 円)

前年度末基金額	今年度変動額				今年度末基金額
	積立額	取崩額	利息	計	
1,904,124	0	0	33	33	1,904,157

監査の結果、正確かつ適正に処理されていることを認めます。

令和4年4月19日

監事 小林 耐子
原 紀子

目標

- ◇同窓会組織および活動の充実、発展
- ◇母校の教育活動支援

活動の重点

- ① 本会、支部組織が機能、充実するために会費制をはじめとした必要な環境整備を行う
- ② 情報を積極的に発信する
- ③ 教育活動支援を行う
- ④ 新校のあり方を検討する

具体的推進事項

事業名	内容
① 組織充実のための整備	◇会費納入額の増額を目的とした実効性ある制度の確立を図る。 ◇支部組織がより機能するための支援を行う。 ◇会運営を円滑に行うために必要となる規定や環境の整備を進める。(SNSの効果的な利用の促進を図ることを含む)
② 情報の発信	◇会報を年一回発行し、情報の提供、共有を図る。 ◇より多くの会員が興味を持てるよう、ホームページを活用し、積極的、効果的な情報の発信を行う。
③ 会員の交流	◇講演会を企画し会員の資質向上を図る。
④ 母校の教育活動支援	◇教育諸活動への支援を行う。 ・クラブ活動助成 ・学力向上、進路希望実現のための支援事業への助成 ・その他必要な助成 ◇卒業生へ記念品(卒業証書ホルダー)を贈呈する。 ◇制服リユース事業を行う。
⑤ 新校のあり方に関する検討	◇同窓会の今後のあり方について検討する ◇新校開校についての推進状況を把握するとともに、必要に応じて対応を協議する。

※上記活動を次の各組織を中心として推進する

- 正副会長会 ・同窓会業務推進等全般について検討する。
- 執行委員会 ・各専門委員会委員長により構成し、同窓会組織、活動推進に対する立案、提案を総合的に行う。
- 常任理事会 ・同窓会活動を推進するにあたり協議、検討を行う。
・次の専門委員会を設置し、具体的な活動の推進を行なう。
 - ①組織整備委員会 ・同窓会組織の充実、支部組織の強化・整備を行う。 ・会費制の充実、整備を行う。
 - ②教養文化委員会 ・同窓会主催の講演会、音楽会等の企画、弥生展の企画を行う。
 - ③広報委員会 ・会報の発行、ホームページの整備等情報発信を行う。
 - ④新校検討委員会 ・同窓会の今後のあり方について検討する。
・新校開校についての推進状況を把握するとともに、必要に応じて対応を協議する。
- 理事会 ・支部長により構成し、年2～3回開催、活動推進について協議、提言を行う。
- 総会 ・年1回開催し、事業、決算、予算等の承認を行う。

一般会計予算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

収入	9,395,000円
支出	9,395,000円
差	0円

収入の部

(単位 円)

科目	予算額	前年度予算額	増減
1 繰越金	199,442	198,555	887
2 会費	9,195,000	10,050,000	△855,000
3 繰入金	0	0	0
4 雑収入	558	1,445	△887
合計	9,395,000	10,250,000	△855,000

支出の部

(単位 円)

科目	予算額	前年度予算額	増減
1 事務費	3,170,000	3,730,000	△560,000
2 交際費	90,000	90,000	0
3 会議費	40,000	40,000	0
4 旅費	20,000	20,000	0
5 事業費	3,000,000	2,900,000	100,000
6 広告費	20,000	20,000	0
7 修繕費	50,000	50,000	0
8 繰出金	3,000,000	3,390,000	△390,000
9 予備費	5,000	10,000	△5,000
合計	9,395,000	10,250,000	△855,000

(△ 予算額が前年度予算額より少ない場合)

終身会費積立金予算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位 円)

前年度末積立額	今年度変動予定額				今年度末積立額
	繰り入れ額	繰り出し額	利息	計	
16,207,986	3,000,000	3,106,000	14	△105,986	16,102,000

- ※1 本年度、終身会費として納入された金額の内、年会費(1人当たり1,000円)を除いた金額を来年度以降の終身会費として積み立てる(＝一般会計：8繰出金)
- ※2 昨年度末までの終身会費納入者累計3,106名の年会費(1人当たり1,000円)を、本年度分の会費として一般会計に繰り出す(＝一般会計：2会費に含む)

基金積立金予算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

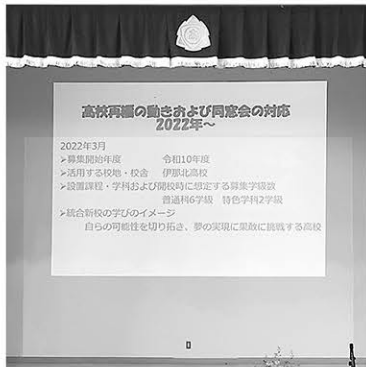
(単位 円)

前年度末積立額	今年度変動予定額				今年度末積立額
	積立額	取崩額	利息	計	
1,904,157	0	0	843	843	1,905,000

総会開催

今年度総会は5月28日、3年ぶりに対面により開催しました。

当番学年である高校33回生の皆様が「高校再編により母校と伊那北高校の統合が決まり、また校地も伊那北高校跡地になることから母校の懐かしい校舎を是非この機会に見ておきたい！」との強い思いから、学校のご理解をいただき、初めて母校を会場に行いました。



❖ 昨年度の事情報告や決算報告、今年度の事業計画や予算案をご審議いただき、また副会長はじめ常任理事、監事の改選もあり、すべての議案が採決されました。また、高校再編についての経過や同窓会の対応についても新校検討委員長から説明がありました。

講演会

「奥原希望の親として～大切にしてきたこと～」と題して、プロバドミントン選手でオリンピックでも活躍されている奥原希望さんのお母様で、高校33回生でもいらっしゃる奥原秀子さんがお話ししてくださいました。



心に響く多くの言葉（講演内容より）



- ☑ 自分で考えることができる子に。
- ☑ 子どもは大人の（親の）所有物ではない。
⇒「転ばぬ先の杖」はしない。失敗しても良いので口出しせずにはずは学ばせる。
- ☑ 人から可愛がられる子に。
⇒「ごめんなさい」よりも「ありがとう」がずっと言える子に。あいさつできること。
- ☑ 三カ条：①目標を掲げさせる。②感情で叱らない。③勝っても負けても、良いところは誉める。
- ☑ 誰とでも付き合える子に。
- ☑ バドミントンを、「自分で選んで、やらせてもらっている自覚」を持たせ、周りの人や環境に「感謝」できる子に。
⇒今、何をしなければならないか。自分で考え、行動できるようにする。周りに感謝すること。
- ☑ 誰でもできることをコツコツと毎日行う、積み重ねる。（凡事徹底）
- ☑ 「迷ったら苦しい道を選ぶ」方が間違いない。（ただし、ケガしたら休むことも必要）
- ☑ 良き出会い、努力できる才能、感謝の心、素直に聞く耳。
- ☑ 二度のケガ（膝の手術）がもたらしたものの。
⇒①バドミントンができる喜び。②世の中にはムダなことは何も無い。

令和5年度総会のお知らせ
(期日、会場は
変更する場合があります)

❖ 期 日 令和5年5月27日(土)
❖ 会 場 伊那市生涯学習センター「いなっせ」
❖ 当番学年 高校34回生(昭和57年3月卒業)

※同時開催「弥生展」
5/22(月)～28(日)
於：展示ギャラリー

当番学年イベント「ブラ弥生」

- ❖ 当番学年イベント「ブラ弥生」は、コロナ禍で懇親会を開けない代わりに交流の機会として企画されました。高校33回生が在学していた当時の校舎と現在の校舎を重ね合わせた配置図を手に、様変わりした建物や懐かしい面影の残る場所などを一時間半ほどかけて散策し、記念写真を撮ったり思い出話をしながら楽しみました。卒業以来40年ぶりに訪れた人もあり、ときにタイムスリップしてその面影を記憶にとどめていました。

令和4年度 同窓会に参加して

去る令和4年5月28日に令和4年度の伊那弥生ヶ丘高校の同窓会総会が開催されました。

私は、当番学年のクラス幹事の一人として、企画等の準備段階から参加しました。例年、「いなっせ」にて開催されていたものを、今年度は弥生ヶ丘高校の小体育館をお借りして開催いたしました。というのも、皆さんご存じのとおり、今般伊那弥生ヶ丘高校と伊那北高校との統合が決まり、統合後の高校は、現在の伊那北高校の地で存続することになっているため、弥生ヶ丘の校舎は、早晚学校でなくなってしまう事から、この機会に自分たちが通っていた学校を見ておきたいと、「ブラ弥生」と銘打って学校見学を企画したものです。

当日は33回生の74名が参加されましたが、皆、懐かしい教室や部室などを回って大変喜んでくれた事が何よりでした。みんなとは、久しぶりの再会でしたが、笑顔を見ることができ、「苦労はしたけど、本当にやってよかったな」と思っています。来年以降も後輩の諸君が当番学年として、企画担当していくと思いますが、学校見学をしてもらえれば、きっと参加したみんなが喜んでくれると思うので継承しろとは言いませんが、推奨します。

最後に、開催にあたり、ご協力いただいた校長先生・同窓会長他、関係各位に感謝を申し上げます。

「最高でした！」

33回生 共同代表 保科道典

— 感想 —

イベントに参加された方々から
寄せられた中の一部を
紹介させていただきます

昔の記憶がはっきりとよみがえったり、全然覚えていなくて真っ白なことも…。
懐かしい思い出話ができととっても楽しい時間になりました。

この学校の風景、いいなあ～。無くなる前にみることで良かったです。
この弥生がなくなってしまうのはとても残念です。



気持ちは高校時代にタイムスリップできました。

卒業後、同じ40年以上をこの地で過ごしていた校舎も樹木たちもいずれ姿を消し、自分たちの記憶の老化も相まって、どこに何があったのか思い出すことが難しくなる時がくるでしょう。ですから当日配布していただいたA組、豊くん作の敷地図は有難い記念であり、レガシーとして卒業アルバムに挟んでおくことにしました。

模試中だった現役高校生たちと同じ制服を着ていた私たちは、人生の機微が少しだけわかるようになり、後輩だらけの職場でも経験値がさじ加減に活かせる年齢になってきました。同学年には周囲に世話や支えが必要な方がいらっしゃる方、ご自分の専門性や世界を追求している方など、きっとそれぞれの地で精いっぱい暮らしていらっしゃるかと想像しています。会えなかった時間を飛び越えてニックネームがすらすらと出てくる、声で誰か思い出せる、という経験の中で、ありきたりですが「ひとりではない」と思えたこと、頑張っている“誰か”を想像できるようになったこと、実感できました。感謝です。

コロナ禍であってもこんな素敵な経験ができる学年にいた私。そのことを思い出させてくれた幹事の皆様、同窓会の皆様、校長先生、関係の先生方、お忙しい中をお世話になりました。

ありがとうございました。

14



15



令和 4年 5月 28日 同窓会イベント

“ブラ弥生” 配置図

— 令和4年現在の校舎

— 昭和53年入学時頃の校舎

“この図を片手に校内散策をしましょう”

母校の様子はけっこう変わったけれど
随所に当時おもかげもあって、心はあの頃に戻れるはずです。

この機会に学校を味わいましょう。
2年生の時に新築だった4階建て校舎は、こんなになりました。
木造校舎・音楽室やピアノ池や図書館は、ここにあったんだ！
そう言えば入学した時は、ここが昇降口だったよね。
部室はどうなっている？
化学・生物教室や地学教室はどんな？
毎日かよったグラウンド横の道はどこ？
体育館は変わったの？
等々、いろいろあると思います。

1



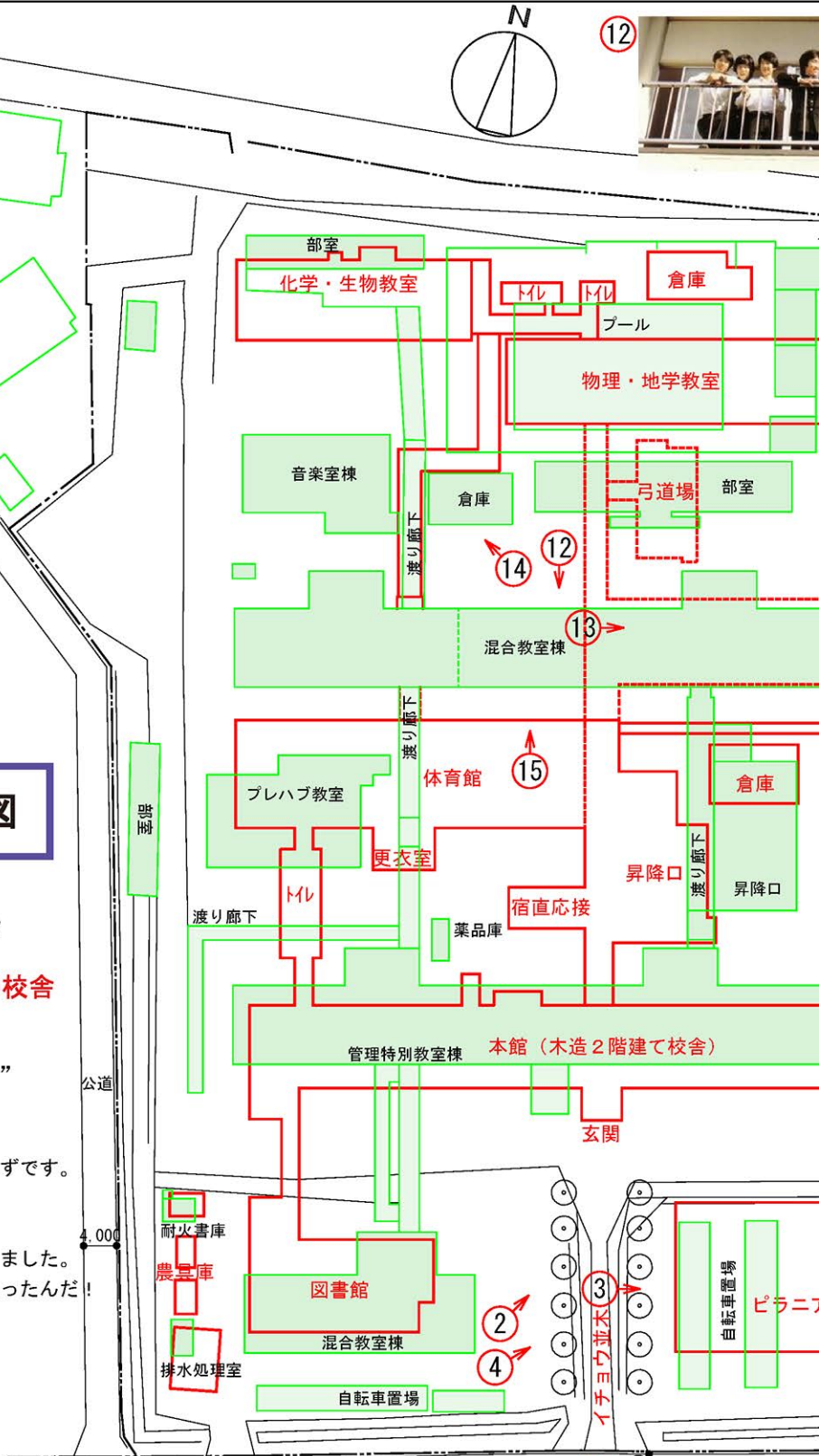
2



テニス



12

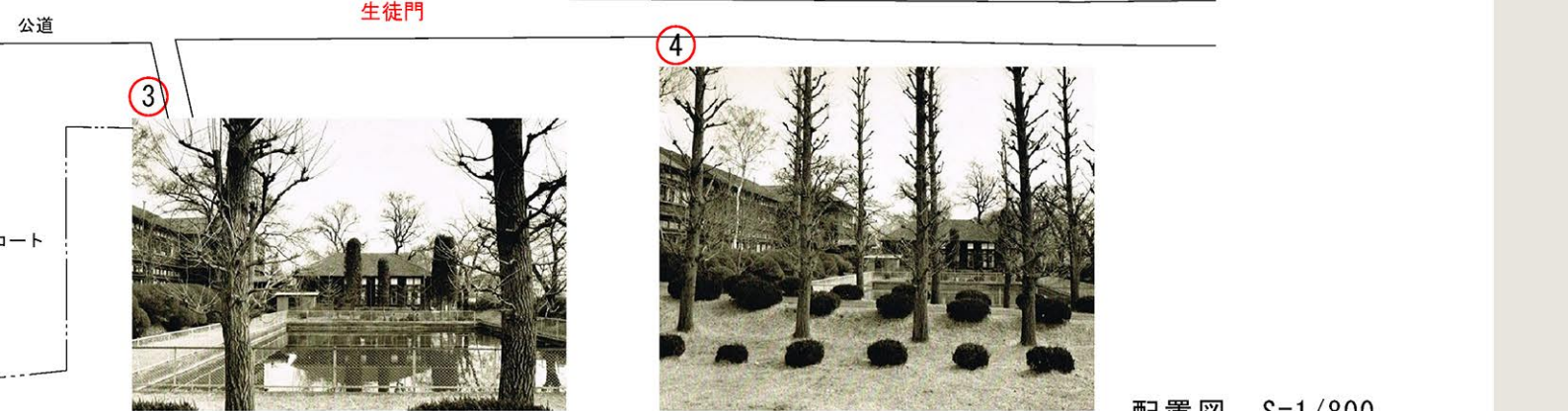
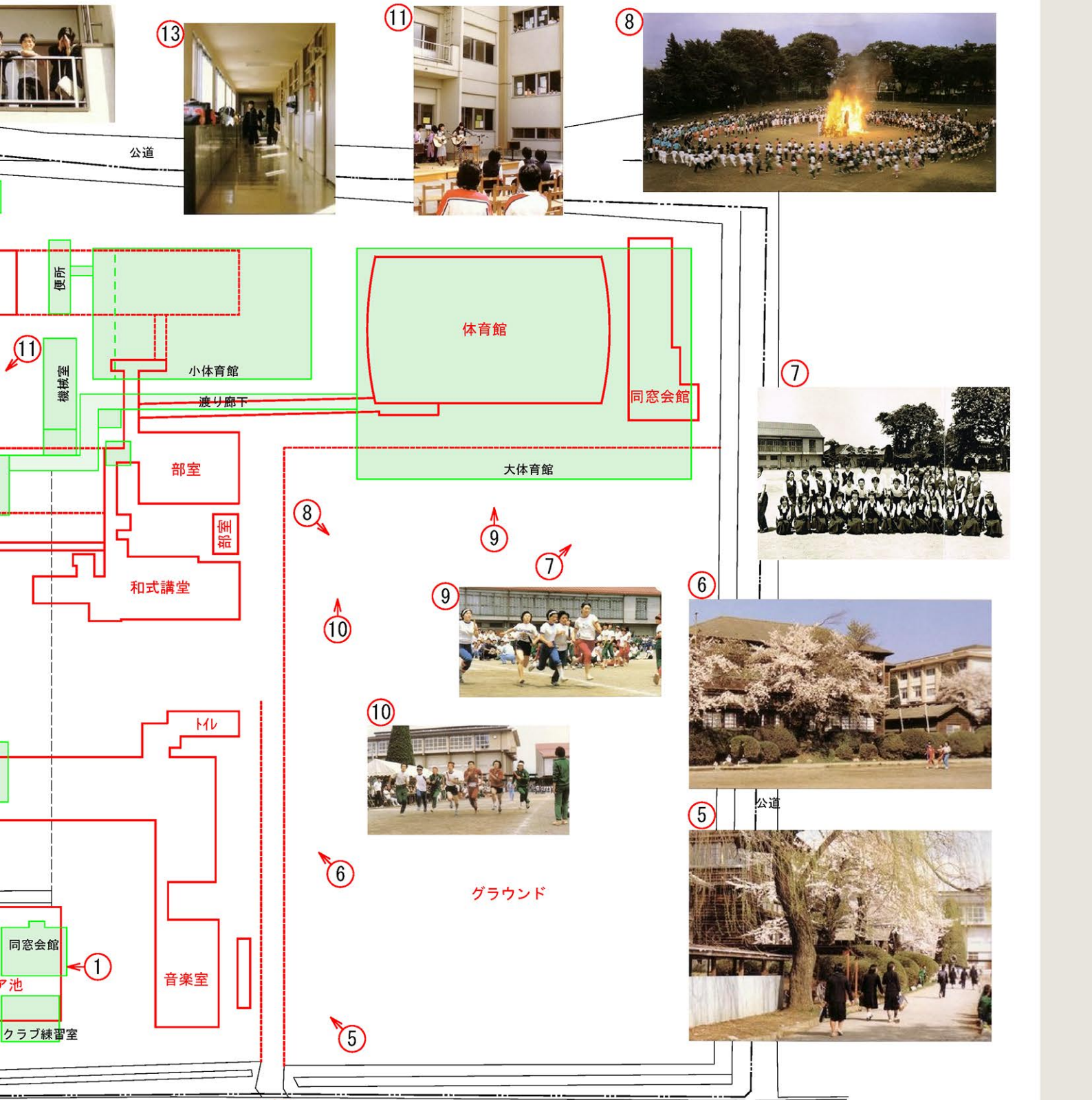


公道

4,000

正門

5,000



配置図 S=1/800

進路状況 (2022年3月)

〈卒業生の進路状況〉

	進 学						計	就 職			その他 予備校 など	合 計
	大 学		短 期 大 学		専 門 学 校 等			公 務 員	民 間	計		
	国公立	私 立	公 立	私 立	看護医療系	他						
男子	22	66	0	1	0	5	94	1	3	4	12	110
女子	25	72	0	11	9	9	126	0	2	2	2	130
合計	47	138	0	12	9	14	220	1	5	6	14	240
合格延数	48	343	0	14	11	14	430	1	5	6		436

進路状況と考察

県内国公立大学進学者は全体の約4割であった。私立大学では都市部の難関大学への志願が増加した。また、併願可能な学力試験型推薦入試で合格確保後、一般受験で本命に的を絞る受験スタイルが成果を出している。

北信越高等学校体育大会

- * 弓道部 個人 3年 飯島 悠斗
- * 陸上部 個人 3年 守屋 有彩 800m・1500m
- 個人 2年 城倉 涼花 やり投げ
- * 卓球部 女子シングルス 3年 篠沢 麻朝
- * 水泳部 個人 2年 小野梨里加 200m 背泳ぎ
- * 男子ソフトボール部 1回戦 対 日本文理 (新潟) 11-10 勝利
2回戦 惜敗

全国高等学校体育大会

- * 弓道部 個人 3年 飯島 悠斗 (R4.8.6~9 徳島県徳島市)

全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール

- * 器楽部 (R4.7.28~29 大阪府泉佐野市) 祝!! 全国知事会賞(第3位)受賞



本年度の 探究的な学び

総合的な探究の時間での学びでは、1年時での探究学習の基礎的なスキルを学んだ後、2学年時、今年度は前半をグループ学習、後半から個人探究へと発展させます。前半では郷土愛プロジェクトの方々とともに、防災・減災、観光、子育て支援、国際協力など9つのテーマに分かれてのグループ学習を経て、後半から信州大学農学部をサポートをいただき、個人探究にむけ始動します。

変わり動く複雑でありまいな時代を生きるために必要な力を育むべく、弥生生のあふれるエネルギーをもって創造性と行動力を一層醸成させる、弥生ヶ丘高校の探究学習はさらなる挑戦に踏み出しました。



(テーマ「新しい高校」での学習の様子)

CLUB Introduction



クラブ紹介 活躍する生徒たち



茶道部

茶道部では日本の伝統文化である茶道の作法を学ぶだけでなく、正しい日本語の使い方や、礼儀など、普段の授業で触れることがない知識を身につけることができます。

部活動では、週に1回、外部講師の春宮先生をお招きし、ご指導の下、部員が交代でお点前をし、和菓子と一緒にお茶を楽しみながら作法を学んでいます。しかしここ3年はコロナ禍で、活動を自粛する回数が多くなり、今年こそはと意気込んだ弥生祭でのお茶会も自粛しました。こうした影響はありましたが、制限された中で部員一同、週に1回の部活動を楽しんでいます。コロナが収束することを願いながら、これからも活動を続けていきたいと思えます。茶道部では、7月31日に、長桂寺をお借りして7月31日に、3年生の引退茶会を行います。感染対策を講じ、家族をお客様として招き、行います。皆様に感謝しながら3年間の集大成として頑張ります。



陸上部

コロナ禍で、練習が行えない時期や競技場の改修工事で使えない期間もありましたが、顧問の先生方や小池コーチのご指導の下、23名の仲間たちと共に多くの練習をこなし、今年度は、14名が県大会に出場し、2名が北信越大会に勝ち進むことができました。

この3年間でいくつもの大会や記録会が中止になったり、合宿なども実施できませんでしたが、先輩方、後輩たちと共に励んだ練習の日々は、3年生にとって良い思い出となりました。



サッカー部

僕たちサッカー部は選手21名、マネージャー2名で活動しています。すでに3年生が引退し、現在は1、2年生だけで活動しています。3年生の先輩たちと最後の総体で県大会に一緒に行くことができなかった悔しさを胸にチーム目標である3部リーグへの昇格、選手権1回戦突破に向けて一丸となって戦いたいと思えます。

家族、先生方、補助員等、ささえてくださっている方々への感謝を忘れず、日々の練習から意識をもって取り組んできたいと思っています。



高校再編

伊那弥生ヶ丘高校と伊那北高校を再編統合する伊那新校(仮称)の再編実施基本計画が以下の通りまとまりました。



(令和4年2月7日・県教育委員会 同3月15日・県議会)

- 開校年度 令和10年度
- 活用する校地・校舎 伊那北高校 ※伊那弥生ヶ丘高校の第2グラウンドも活用
- 設置課程・学科 開校時に想定する募集学級数 全日制課程 普通科6学級、特色学科2学級

伊那新校再編実施計画懇話会について

母校と伊那北高校を再編統合を協議する伊那新校再編実施計画懇話会が昨年7月から約月一回開催されており、伊那新校を「生徒を主人公に据え、互いに切磋できる上伊那地域の普通科教育の拠点校」と位置付けて目指す学校像、育てる学校像などについて検討を進めています。

今年度は約4回の懇話会開催を予定し、主に校名検討、施設整備、教育内容の3つのテーマについて検討を行うというスケジュールの概略が示されています。

校地決定について

懇話会内に専門部会が設置され、5回に及ぶ会議において校地・校舎に係る環境、通学環境、学習活動を支える教育環境の視点から検討が行われてきました。そして11月30日に県教育委員会より「新校は伊那北高校の校地を活用するとともに伊那弥生ヶ丘高校の第2グラウンドも有効に活用するものとする」との決定事項が報告されました。県教委は両校の校地の広さ、駐車場施設の確保、通学時の安全性、周辺の学習環境や隣接施設の有効性など11項目について比較検討した結果、両校に大差はないが新校の校地を選定するうえで最優先すべき事項としては、全校生徒がその優位性を享受できる「日常行われる教育活動につながる敷地(校地)の広さ」を優先すべきとの結論に至った(校舎と一体となった敷地面積は伊那北高校が7,720m²広い)と説明がありました。また伊那弥生ヶ丘高校の第2グラウンドについては、生徒の多彩な部活動を支えるために新校においても活用したい、移動距離や時間が長くなるが活用可能と判断したとの説明もされました。

同窓会としての対応

2017年3月に当時の学校長から「学びの改革基本構想(案)」について初めて説明を受け、翌年2018年4月に本会内に専門委員会を組織して現在に至るまで様々な対応を行っております。伊那新校再編実施計画懇話会には同窓会の代表として会長を送り出すとともに、校地選定に際しては、将来の子供たちのために最も良い選択となるよう、客観的な視点に基づいて協議し、上伊那全体の高校配置、伊那市全体としての学園構想、伊那市中心市街地の商工業や交通等の未来像も含め多角的な視点からの意見書を提出しました。校地決定後においても、同窓生の皆様への説明と了解を得るにあたり、県教委と話し合いの機会をもち、決定の経緯についてより詳細な説明を求めました。

同窓会としては「どちらの校地にもメリット、デメリットがある中で、上伊那全体の教育環境を広く高い見地から整備していく」という県教委の説明を受け、未来ある子供たちの新しい学びにふさわしい学校を創ることを核として校地のみならず今後検討される多くの事項に全力を注いでいくべきであり、ハード面、ソフト面ともに県内どこにも見られないような新しい学びの場が上伊那に創られることに夢をかけ、伊那北高校同窓会とともに尽力していくことを会として確認しました。

懇話会の中で、構成員の一員である母校の生徒代表から「弥生の雰囲気がよかった。弥生でダンスをやりたい」という思いで母校を志望し入学したという発言がありました。新校設立には生徒の意見が反映されていくことを期待します。

今後は引き続き懇話会で協議される事項について情報を共有し発信するとともに必要に応じて対応していきます。あわせて今後の同窓会組織の在り方についても具体的な検討に入ります。

〈詳細についてはこちらをご覧ください〉

○ 伊那新校再編実施計画
「高校改革～夢に挑戦する学び～」
長野県教育委員会 (nagano.lg.jp)

○ 同窓会としての対応の経過
伊那弥生ヶ丘高校同窓会
(inayayoi-dousoukai.com/)

令和4年度 年会費・終身会費 納入のお願い

令和3年度同窓会年会費、終身会費を納入いただきましてありがとうございました。

昨年度の主な教育支援としては弓道場の防矢ネットの設置、オンライン授業など学校において多角的に利活用で

きるウェブ会議サービスのZoomのライセンス権購入、探究学習への補助などを行いました。

県費だけではまかないきれない部分について同窓会で迅速に対応し、教育環境整備のお手伝いをしています。



(弓道場防矢ネット)

《金額》 25,000円 (終身会費)

※平成24年度から納めていただいている分を含めますので、すでに納入された金額については事務局までお問い合わせください。但し④の「年齢による特例措置」により納めていただく場合は除きます。

次のいずれかの方法でお願いいたします。

- ① 25,000円を一括納入
- ② 59歳までに15,000円、60歳時に10,000円を納入
- ③ 毎年1,000円を納入
- ④ 特例措置として、次の年齢の方はこの金額で納入していただけます。
 - ・60歳以上：10,000円
 - ・70歳以上：5,000円
 - ・80歳以上：名誉会員のため会費はいただきません

《納入方法》 同封の振込用紙でお振込みください。

上伊那地域にお住いの皆様には基本的には地区役員が(感染防止に留意して)集金にお伺いいたします。

《納入期限》 令和5年1月末までにお願ひします。

お願い

年会費は同窓会運営のみならず、母校、後輩への支援の大切な財源となっています。しかしながら昨今の会費納入は、非常に厳しい状況にあり、思うように母校の支援ができない現状です。弥生ヶ丘で一時期を過ごし、巣立った同窓生たちの交流・情報交換の場として、また現在の学校と弥生生を見守りつつ、応援を目指す同窓会活動へのご理解をいただき、同窓生の皆さまのご協力をぜひお願い申し上げます。

※ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

皆さまからいただいたお声

Q

弥生は6年後にはなくなってしまうから～会費を出す必要はないんじゃない？

A

新校開校までは学校には生徒が学び生活しています。また新校は母校と伊那北がその礎となって再編統合する学校です。現在の母校のみならず新校にも母校の伝統や精神が受け継がれていきます。会費はその新しい学校で学ぶ地域の子供のためにも使われます。

Q

わざわざ郵便局に行く手間が面倒なんだよね～

A

上伊那地域にお住いの皆様は地区役員が集金に伺うこともありますが、お宅がわからなかったり、役員の手間が大変だったり、なかなかすべてのおうちにお伺いすることができません。ご面倒ではありますが、例えば今年度終身会費を一括で納めていただきますと、来年以降は納めていただく手間はなくなります。

Q

会費を払いたくないから同窓会をやめたい

A

当会に脱会規定は設けてありません。また会費については強制ではなくご協力をお願いしています。温かな気持ちで母校と後輩をお見守りいただければと思います。

Q

集金に行ったら嫌味を言われてとても悲しかった。もう役員はやりたくない。仕事もあるのに大変なんです。

A

お忙しいところ本当にありがとうございます。一年に一回、何日かご苦勞をいただいていることは十分承知しています。またそんな中、嫌な思いをされてしまったこと申し訳ありません。会員の皆様、どうぞ「お疲れ様」という気持ちでご対応ください。

昨年、一昨年はコロナ感染防止のため集金を行わずすべての皆様に振り込みをお願いしましたがその結果大きく会費収入が減少してしまいました。今年は上伊那地区内では基本的に集金をします。ご協力をお願いいたします。役員お一人の負担が大きくならないよう、各支部で工夫をしていただければと思います。皆様からいただく大切なお気持ちを丁寧な形でお預かりすることが大切だと考えます。



伊那弥生ヶ丘高校同窓会

令和4年9月1日発行

TEL 0265-76-0615

<http://www.inayoi-dousoukai.com/>

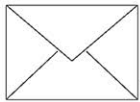
yayoidoso@heart.ocn.ne.jp

編集 / 印刷 有限会社北条印刷

事務局に寄せられた温かい、 そして素敵なエピソードを紹介します。

愛知県にお住いの、
亡くなられた同窓生の奥様のご主人様より

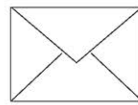
亡妻の一周忌を先日無事済ませました。
素晴らしい女性に育てていただきありがとうございました。
素晴らしい女性に育てていただきありがとうございました。何かの足しにでもしていただければ幸いです。



本当に温かいお心をいただきありがとうございます。
素敵な奥様のお姿が目に見えようような気がしました。
いただきましたお気持ちを大切に、母校と後輩のために使わせていただきます。母校が111年間繋いできた素晴らしい伝統を誇りに思います。

大分県にお住いの
高女23回生の方のお嬢様より

母は昨年亡くなりましたが、毎年同窓会報が届くのをとても楽しみにしていました。何年か前の会報に母の在学当時の校歌（第二校歌）が載っていたのを見ながら“高嶺そびやく”と覚えていたメロディーをしっかりと口調で歌ったのでとても驚いたんですよ。



お母さまは高女時代の楽しかった思い出をたくさんお話されていらっしゃったとのことで、袴でブーツを履いて「ハイカラさんが通る」（大和和紀『週刊少女フレンド』（講談社）1975.7～1977.10連載）の漫画のようだったそうです。

“伊那から遠く離れた大分にどのようなご縁で嫁がれたのでしょうか？”とそのお嬢様にお伺いしたところ“きっとそれだけ旦那様が素敵だったのでしょうね”とのことでした。

故郷を遠く離れた土地でこの会報をご覧になって故郷や母校を懐かしく思ってくださいる方がいらっしゃることを、改めて同窓生の皆様がお健やかに、お幸せに過ごされますようにと願っております。

情報、資料、記憶の収集・保管・継承を進めます

母校の閉校に際して、同窓会では創立から現在までの資料、情報、記憶を収集し、保管、継承していく事業を進めていきたいと思います。校舎や校歌、授業、恩師、学校生活、クラブ等々、どのような事でも、どのようなものでも、また曖昧な記憶でも結構です。ぜひお寄せください。母校はなくなっても思い出はずっと残しておきたいと思っています。（詳細についてはホームページなどでお知らせいたします）



本会役員名簿（令和4年度改選）

会 長	下島 典子
副 会 長	安積 順子 / 西原 功
常任理事	中村 繫子 / 守屋あつ子 / 酒井裕美子 / 河井 啓子 / 伊藤のり子 / 丸山 紀子
〃	井口美奈子 / 広瀬夏葉子 / 北原美智代 / 伊藤 圭子 / 田畑 和輝 / 塩澤 康一
監 事	原 紀子 / 片桐 洋子
幹 事	竹松ゆかり(学校) 常田真由美(学校) 林 友海子(学校)
事 務 局	田中真奈美

編集後記

今年も弥生の桜は見事に咲き誇り、みんなを応援しているようでした。会員の皆様には年一回発行の会報を楽しんでいただき、また学校への想いを巡らせていただければ嬉しいです。